

情報工学科			国語				
学年	第2学年	担当教員名	加藤 岳人				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		・日本語で書かれた様々なジャンルの文に接して、話すこと・聞くこと・読むこと等、基礎的な言語生活の充実を図る。 ・日本文化の伝統を知り、そこに根ざした言語の力・はたらきについて学ぶとともに、日本語の表記能力を高める。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・授業中も国語辞典を活用し、語彙力・読解力・表現力に自ら磨きをかけてほしい。					
到達目標		・言語表現の文脈に沿って文章を正しく解釈することができる。 ・物事を客観的に捉え、根拠を示しつつそれを効果的に表現できる。 ・現代日本語を正確かつ丁寧に表記することができる。					
成績評価方法		・定期試験の成績(90%)と「読書レポート」・「表記課題」等、提出物の内容(10%)により評価する。合否判定はこれに同じ。					
テキスト・参考書		テキスト:『高校生の国語総合』(明治書院) 『新現代文改訂版』(大修館書店) 参考書:『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』(山田ズーニー著 PHP新書) 『考える力がつく論文の書き方』(小阪修平著 大和書房)					
メッセージ		授業には、受け身ではなく、自ら学び取る意欲を持って臨んでほしい。論理的な思考能力は、日頃の継続的な「読む経験」によって培われる。 新聞を読む習慣を身につけ、論理性の高い文章に接する機会を増やそう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス 2回 2. 随想「サハラ砂漠の茶会」3回 3. 随想「人間の哀しさ」3回 4. 古文「竹取物語」5回 5. 漢文「書き下し文」2回 6. 表記トレーニング 7回				1. 授業の目的、作業内容が理解できる。 2. 文章の主題を読みとることができる。 3. 人間の持つ普遍的な弱さに気づくことができる。 4. 基本的な古語の意味がわかる。歴史的仮名遣いを音読できる。 5. 書き下し文の概念が理解できる。 7. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
前期中間試験				実施する			
7. 試験反省 1回 8. 漢文「王昭君」4回 9. 小説「羅生門」7回 10. 小説「友情の杯」3回 11. 表記トレーニング 7回				7. 個別の学習課題を発見することができる。 8. 内容を理解し、論理的に関係づけることができる。 書き下し文を書くことができる。 9. 作品中の語句の意味がわかる。登場人物の論理を理解することができる。 10. 読書レポートを書くことができる。 11. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
前期期末試験				実施する			
12. 試験反省 1回 13. 評論「コインは円形である」5回 14. 古文「奥の細道」5回 15. 評論「逆さに地図を眺めてごらん」4回 16. 表記トレーニング 7回				12. 個別の学習課題を発見することができる。 13. 文中の語句の意味がわかる。文章の論理を追うことができる。 14. 基本的な古語の意味がわかる。適切な語句を補って解釈できる。 15. 発想の意外性に気づくことができる。文章の論理を追うことができる。 16. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
後期中間試験				実施する			
17. 試験反省 1回 18. 小説「山月記」8回 19. 漢文「塞翁馬」4回 20. 短歌・俳句 2回 21. 表記トレーニング 7回				17. 個別の学習課題を発見することができる。 18. 指定された文章を暗誦できる。作品中の語句の意味がわかる。 登場人物の論理を理解することができる。 19. 内容を整理し、論理的に関係づけることができる。 書き下し文を書くことができる。 20. 日本の短詩について説明できる。 21. 正しく正確な縦書き表記ができる。			
後期期末試験				実施する			